

# 郷土資料の散歩道

図書館郷土資料室

☎21-6111 内線6201

## 上杉輝虎朱印状

上杉謙信の珍しい朱印状

今回は図書館郷土資料の中の一点「上杉輝虎朱印状」を紹介します。永禄十年（一五六七）に上杉謙信が小河可遊齋に出した朱印状（朱印を押した書状）で、四三七年後の今でも、鮮やかな朱印に驚かされます。

（※注：謙信の幼名は虎千代、元服後は景虎と称し、永禄四年閏三月に関東管領上杉家を相続し上杉政虎と改名。同十二月には將軍足利義輝より一字を賜り輝虎と改名し、元亀元年（一五七〇）以降は謙信と号した。）



▶折紙（おりがみ）といって紙を横半分に折って書かれた書状  
縦三三cm、横四五・二cm



▲朱印部分原寸大

この朱印状の内容は、越後国より毎月十五疋の荷物を送るので、荷物の受入れや関所・渡の通行に間違いが無いようにと、小河可遊齋に命じています。可遊齋が居た小川城（群馬県月夜野町）は、謙信の関東出陣の拠点となる沼田城（群馬県沼田市）と越後を結ぶ交通の要衝でした。

楕円・鼎形「梅」の朱印  
使用例はわずか三例だけ

押されている朱印ですが、大きさは縦四二mm、横三五mmの楕円の中に鼎（古代中国で食物を煮た三本足の銅器、国位・権威のしるし）を描き、その中に梅の字を刻んだものです。

現在、この朱印が確認される古文書は僅か三通で、大変珍しい朱印状です。他の一点（吉江家文書・東大史料編纂所の影写本で確認されるが、原本は現在不明）は印判の使用例を示した掟書（これは所帯かた、又は万調かたの時）と、この「梅」の印判は知行や財政関係に使用と指示されています。

また、平成十四年には東大阪市の専宗寺から一通が見つかり注目されました。柿岡城（茨城県八郷村）の梶原政景に宛てた朱印状で、こちらも謙信の関東出陣に関する指令書です。年号の記載はありませんが、永禄十二年に出されたものと考えられています。

## 郷土資料の小径

最近、図書館に受入れ（寄贈）された郷土関係の書籍を紹介します。

『山形県諸藩の和算』千喜良英二著  
米沢女子短期大学名誉教授の故千喜良氏が、十数年来の和算研究をまとめた1冊。

『米沢時代の吉本隆明』斎藤清一著  
思想家・詩人として著名な吉本氏の米沢時代を、丹念な調査と取材を重ねてまとめた力作。

重文「長尾上杉氏印章」  
に現存せず

謙信は多くの朱印を用い、その他には「宝在心」、「田量」、「封」といった印文や、「阿弥陀・日天・弁財天」、「立願、勝軍地藏・摩利支天・飯綱明神」等の神名を刻んだ朱印がよく知られています。その多くは代々上杉家に伝えられ、平成六年には「長尾上杉氏印章」として国の重要文化財に指定されました。しかし、この「梅」の印は上杉家に伝承されず、所在は不明となっています。そうした意味でも、この朱印状は貴重なものといえます。

なお、この朱印状は戦前に米沢市会議員などを勤めた吉川金蔵氏が収集した古文書の中の一点で、昭和二十七年に市立米沢図書館に寄贈していただいたものです。